

街が街であるために

小林 真也

愛媛大学 大学院 理工学研究科

クイズ

10年前に愛用

● Q 「四国の先進性はなんでしょう？」

A 「高齢化です」

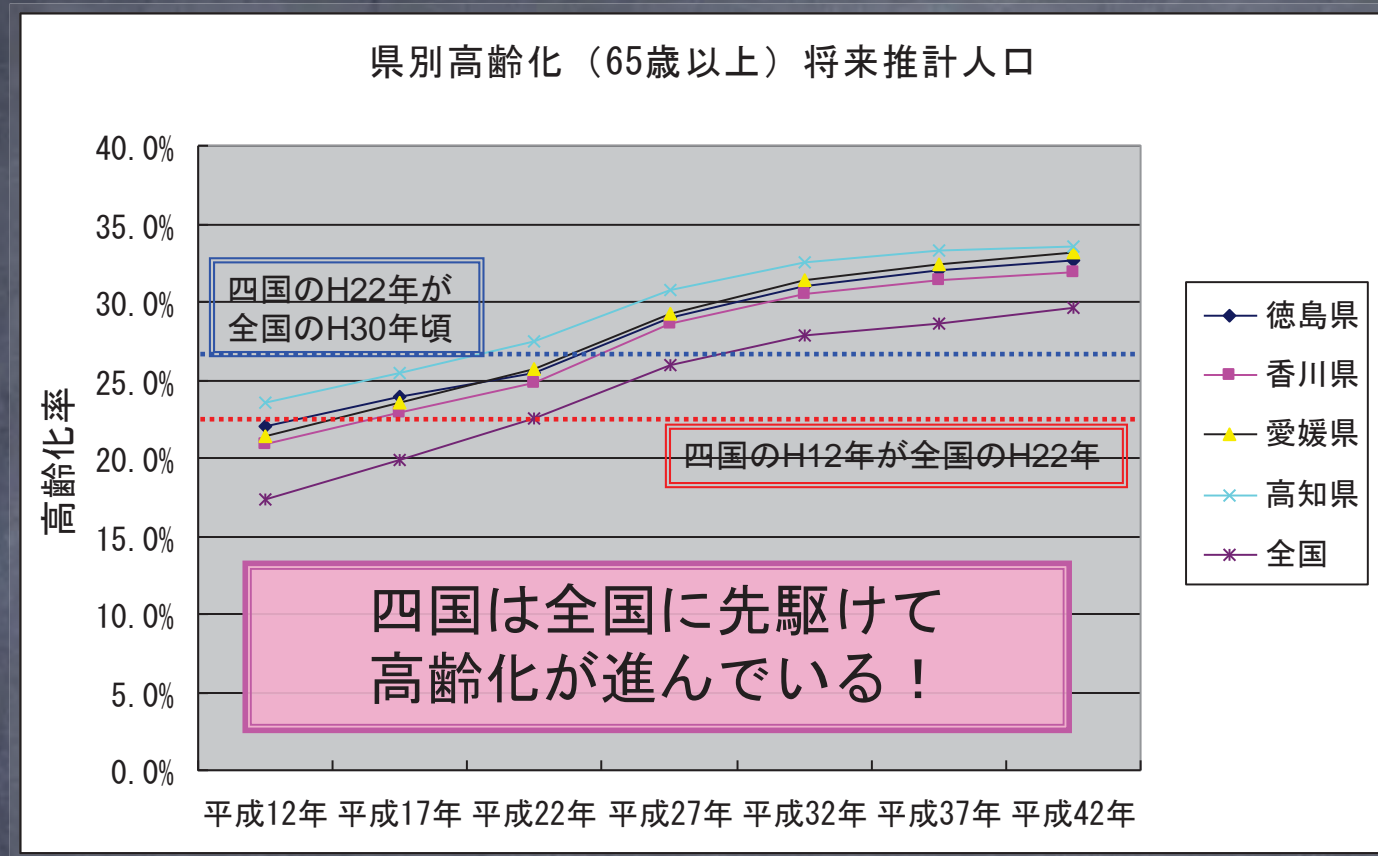
全国に先駆けており、

将来の都市部の具体像

● 「高齢化」と「先進性」に、感覚的なギャッ

プや違和感を感じた人もいた

根拠としていた資料



- ① 当時の予測（上記）通りに推移
- ② H21年 徳島26.6，香川25.4，愛媛26.2，高知28.4

（H23年版 高齢社会白書より）

高齢化は問題か？

高齢化の現状

(平成23年版 高齢化白書から)

● 高齢者の家族と世帯

- 高齢者のいる世帯は全体の4割、そのうち「単独」・「夫婦のみ」世帯が過半数
- 子どもとの同居は減少し、諸外国と比べ別居している子との接触頻度が低い人が多い
- 一人暮らし高齢者は増加傾向にあるも一人で過ごすことには不安を感じている

● 高齢者の経済状況

- 暮らし向きについて、苦しいと感じている高齢者は高齢になるほど減少
- 高齢者世帯は、世帯人員一人当たりの年間所得が全世帯平均と大きな差はなく、6割強の世帯は所得が公的年金・恩給のみ
- 世帯主が65歳以上の世帯では、一人当たりの支出水準は全世帯平均を上回り、貯蓄は全世帯平均の1.4倍

これで大丈夫！ ？？

- ICTで高齢者の安心安全を確保
- 高齢者の消費行動を促進
高齢者向けの情報サービス， ICT関連サービスの
実現

👁️ **就業率** (平成23年版 高齢化白書から)

55~59歳で90.5%、60~64歳で73.1%、
65~69歳で50.1%

地域社会の持つ生産活動能力の低下

→ 地域の財の流出

生産と消費の均整のとれた社会構造の維持が必要

● 高齢化率の増加

● 生産・消費の不均衡

● 労働世代の流出・減少

● 地域経済弱体化

● 高齢化世帯の増加

衰退スパイラル

● 高齢者の不安



ICTは魔法か？

今やICTは、交通、水道、電気、ガスに次ぐ、**ライフライン**となっている。

様々なサービスの提供や実現の基盤となり、さらには、他のライフラインを支える役割も持ち出した。

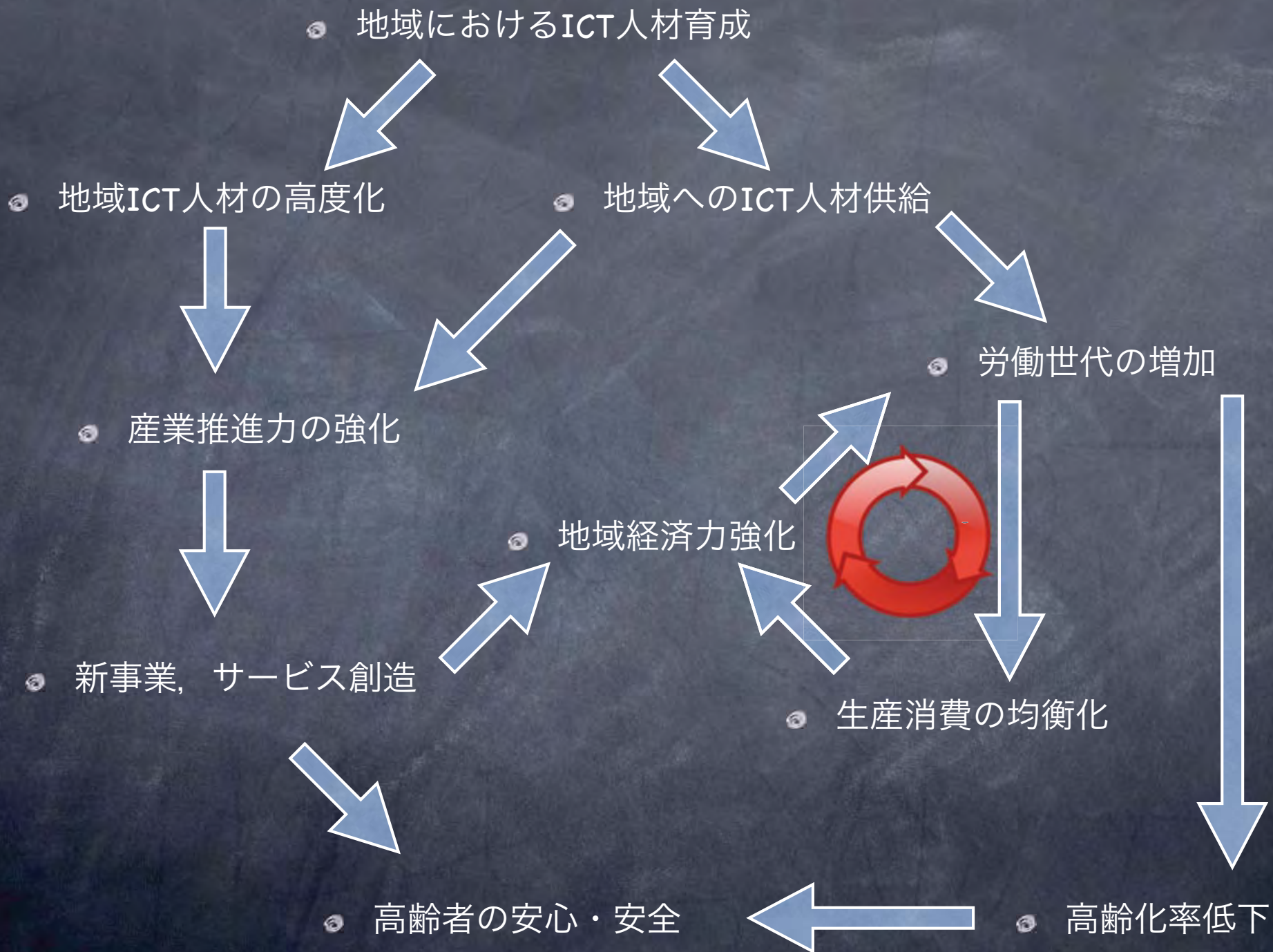
ICTが**無ければ何もできない**状況になっている。

安心・安全にもICTが重要な役割を果たしている。

しかし、「ICTで何でも解決」とはいかない、連鎖関係を考えた手立てを考える必要がある。

「街」 = 「それ自身の営みが成立
し、生きているコミュニティ」

『衰退スパイラルを、どう断ち切るのか』



サイクルを回すエネルギー
はどこから来るか

● 地域におけるICT人材育成

● 地域ICT人材の高度化

● 地域へのICT人材供給

● 労働世代の増加

● 産業推進力の強化

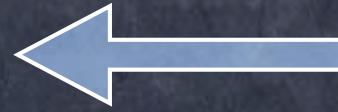
● 地域経済力強化

● 生産消費の均衡化

● 新事業, サービス創造

● 高齢者の安心・安全

● 高齢化率低下



サイクルの動力源強化

- 地域で人材を育成し，供給する教育の推進
- 地元企業を中心とした新サービス，産業の創造推進

人材育成の重要性

現代社会において情報通信技術（IT）が経済活動や社会システムに果たす役割の大きさに鑑みれば、関係者が共通の認識に立って連携して情報通信技術人材の育成・確保に取り組むことが必要である。

“情報通信技術人材に関するロードマップ（案）”

H23年8月 高度情報通信ネットワーク社会推進戦略本部決定

ICT人材の教育機関からみた 地域における課題の現状

- ① 地元就職先の不足

地元就職希望者が県外に流出

- ② 仕事の流出

地域の仕事を県外の企業、労働者が実施

サイクルの動力源強化

- 地域で人材を育成し，供給する教育の推進
愛媛大学ICTスペシャリスト育成コース(H21年度から)
- 地元企業を中心とした新サービス，産業の創造推進
注：ICT関連企業・分野に限定するものではないが，
基盤であるICTの力は地域に必要

地域の活性化には

- ICTのインフラや、ICTシステム、サービスを持つこと、存在することが重要ではなく、それを実現できる力（人）が、地域に存在すること（存在できること）が重要.
- 「ICTインフラ整備」 → 「利活用」
から
「ICTインフラ整備」 + 「実行力（実効力）集積」
へ